

令和5年度 学校評価実施報告書

学校名 (上京中 学校)

教育目標

○校訓「人・もの・ときを大切に」

○学校教育目標 「自立・貢献・夢づくり」

～豊かな心とたくましく生きる力を備え、夢や希望をもって、未来社会の創り手となる生徒の育成
～

(スローガン「協働・創出」: 共通の目的を達成するために、お互いの違いを認めつつ尊重しあい、課題解決に向けて心を合わせて協力・協調し、物事を新しく創り出そうとすること)

年度末の最終評価

| | |
|---------|--|
| 自己評価 | 教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し |
| | <p>今年度後期の学校評価アンケートでは、教育目標について、生徒は、1年生 91.9%、2年生 95.3%、3年生 98.3%、保護者は 94.3%が達成できていると回答している。生徒は、おしなべて高い数値となっており、学校目標である、夢や希望をさだめることを意識して、行動化しようとする姿勢が伺える。さらに、教職員は、重要度 100%、実現度 95.5%の回答があり、教育目標に一丸となって取り組んだ姿勢がうかがえたことは成果である。今年度、校訓は昨年度からのものを引き継ぐものの、学校教育目標「自立・貢献・夢づくり」にはスローガン「協働・創出」を付け加え、より具体的な指針を示すことで、教職員をはじめ生徒・保護者にも理解が深まり、具現化できたと考える。また、将来を見据えた成長過程を意識して、学年・学級の目標が検討され取組も進められたと考える。</p> <p>また、本校教育目標を達成するための礎として、保幼小中の一貫教育における自己肯定感・自己有用感などの自尊感情の育成を柱として互いに連携しながら教育活動に継続的に取り組みたい。</p> |
| 学校関係者評価 | 学校関係者による意見・支援策 |
| | <p>教育目標を実現するため、生徒につけたい資質・能力として「発信する力」・「折れない心」をキーワードに1年間教育活動に取り組んでこられたことがよくわかった。自己肯定感、自己有用感の向上が今後とも課題と見られるが、引き続き、総合的な学習の時間を中心にカリキュラム・マネジメントを進め、さまざまな形態での自己発信の場を設定し、さらに向上できるように、地域とのかかわりや保幼小中の連携も意識しながら継続していただきたい。地域や学校運営協議会でも、生徒たちとの接点を多く設定し、つながりを大切にし、接する機会の中で生徒一人一人が何かの役割を担って、その達成感を得ることで、自己肯定感の高めでもらうことを期待している。</p> |

学校関係者評価の評価日・評価者

| | 評価日 | 評価者 |
|------|-------|---------|
| 中間評価 | 11月9日 | 学校運営協議会 |
| 最終評価 | 2月20日 | 学校運営協議会 |

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標 「協働的な学び」と「個別最適な学び」の充実を目指して

～ “深い学び”を重視した授業を通して「自ら学ぶ力」を育成する～

具体的な取組

【「深い学び」を重視した授業改善】

- ① 「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業実践から資質・能力の育成を図り、学びの質を高める。生徒達が学習したことの価値や自分にとっての意義を確認できるような授業の実現を目指し、生徒の意欲的な学びを引き出す。
- ② 確かな学力の向上を目指し、基礎・基本の定着を図るとともに、知識・技能を活用する学習活動の充実、習得・活用・探究という学びの過程から、問題解決的な学習や探究活動を充実させることにより知識をつなげ深く理解するなどの「深い学び」を生み出す。
- ③ 学習課題に応じた「まとめ」「振り返り」の徹底を通して、「自らの学びを調整する力」の育成を図る。
- ④ 多様な学習形態により、言語活動の充実を図り、協働的な学びを生み出す工夫をする。思考力・判断力・表現力を育成するとともに主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。
- ⑤ 校内授業研修・校内研究授業や支部授業研修会における授業交流などを通して指導力向上に向けて研鑽を積み、各教科で問題解決的な学習や探究活動の充実を目指す。
- ⑥ 全国学力・学習状況調査や学習確認プログラム（予習シート・復習シートを含む）を計画的に取り組ませる。また結果の分析を行い、生徒の学力実態を把握するとともに、課題を明らかにすることで、授業改善や指導の工夫に取り組む。
- ⑦ 年間指導計画に基づき、授業のねらいを明確にした授業を展開する。また「目標に準拠した評価」や「目標と指導と評価の一体化」の充実を図ることで、効果的な学習評価を実施する。
- ⑧ 教科会の充実を図り、教員間の同僚性を高める。（時間割内の教科会を活用する。）
- ⑨ KYOTO×教育 DX ビジョン構想のもと、直接体験を伴う集団の中での学びと、ICTを効果的に活用した学びを組み合わせながら、特に「情報活用能力」を育てるために、ICTを活用した学習場面を設定する。
- ⑩ 支援を要する生徒に対する指導の目標や内容を明確にし、総合育成支援教育の充実を図る。

【自学自習の習慣化・個別最適な学び】

- ⑪ 「学習のすすめ」や「学習の手引き」を作成し、日々の授業と家庭学習の連動を通して、自学自習の習慣化をはかる。授業と連動した課題の提示方法の工夫・改善を行う。
- ⑫ 定期テスト前や、長期休業期間を利用した補充学習を実施し、自主的に学習する態度を育む。
- ⑬ ICTを活用した協働的な学びと、個別最適な学びを一体的に充実させる方策を開発・実践する。
- ⑭ 支援が必要な生徒について、個別の指導計画・個に応じた指導計画を作成する。また、支援が必要な生徒への教職員の共通理解を深め、指導に役立てるための研修会を実施する。

【人権教育・道徳教育】

- ⑮ 人権文化の理解と定着を目指して、計画的・系統的に人権学習を実施する。
- ⑯ 人権学習の時間に限らず、教科・道徳・特別活動等、教育活動のあらゆる場面を通して、相互の主体性を尊重し共に成長し合う生徒の人権意識の向上に努める。
- ⑰ 体験活動や各教科、総合的な学習の時間、及び特別活動における取組と道徳教育を関連付け、

道徳的価値の自覚を深める指導の充実を図る。

- ⑯ 道徳の評価「こころのあゆみ」や学期ごとの振り返りを効果的に活用し、「生徒を育てる」評価のあり方、生徒自身の成長と課題を自己認識させることができる評価の工夫と改善を図る。
- ⑰ 公共の精神としなやかで豊かな心の育成を通して、自ら律する力の育成とともに規範意識の向上に取り組む。

【キャリア教育】

- ⑯ 総合的な学習の時間を核とした、カリキュラム・マネジメントの視点を意識したキャリア教育を推進し、探究活動の充実を図ることで、子どもが主体的に学ぶ力を育み、子どもの成長と自己実現を支援する。
- ⑰ 「生き方探求（キャリア）パスポート」等を活用しキャリア形成についての見通しを持たせる。
- ⑯ 進路指導を通して、生徒が自己実現に向けた進路選択ができるように支援する。
 - （・ジョイ JOBLAND での体験学習を、本校のキャリア教育（1年）として位置づけ、取組を進める。）
 - （・生き方探究チャレンジ体験を、本校のキャリア教育（2年）として位置づけ、取組を進める。）
- ⑯ 挨拶の励行、学習規律・基本的生活習慣の確立とともに、望ましい人間関係を構築する態度を育成する。学校行事、生徒会活動、部活動等を通して集団生活や集団活動の楽しさを実感するための取組の充実を図る。
- ⑯ クラスマネージメントシートや教育相談アンケートの結果を、学級づくりに活かす。
- ⑯ 学校行事、総合的な学習の時間、道徳の時間、特別活動等のあらゆる取組を通して、自尊感情や自己有用感、共感力を高める機会を設ける。

【保幼小中連携・地域連携】

- ⑯ 夏季合同研修会を通して、小中教員の交流を深める。
- ⑯ 小学6年生を対象に中学校での部活動体験や授業体験を実施するなど、行事における連携を図る。
- ⑯ 小中連携により、義務教育9年間を見通した学びと育ちの充実を図り、小中一貫教育を推進する。
- ⑯ 授業参観や公開授業の機会を利用し、保護者や地域の人々の参加・協力を得るなどして、家庭や地域社会との共通理解や連携を深める。
- ⑯ 文部科学省より「カリキュラム・マネジメント実践研究事業（授業時数特例校制度）」の研究指定を受けたことにより、教育課程で定められた授業時数を柔軟に運用し、カリキュラム・マネジメントを推し進め学習効果を高める研究を進める。テーマを「郷土・地域教育」と設定し、具体的には2年生の総合的な学習の時間におけるテーマ「社会に主体的にかかわる」のもと、年間計画に沿いながら、国語と社会と美術で行う。

（取組結果を検証する）各種指標

【授業改善】【自学自習の習慣化・個別最適な学びと協働的な学び】

- ・全国学力学習状況調査や学習確認プログラムの分析結果。
- ・全国学力学習状況調査生徒質問紙の結果。
- ・学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）
該当項目…授業はわかりやすいか。生徒は意欲的に授業を受けているか。

生徒は自分の考えや意見を発表することが得意であるか。
授業での話し合い活動に積極的に参加しているか。
問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。
主体的・対話的で深い学びに向けた問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業をおこなっているか。
予習シートを仕上げたか。復習シートに取り組んだか。計画通りに学習を進めたか。
GIGA 端末を使用して、学習に意欲的に取り組めたか。
家庭学習は行っているか。

【人権教育・道徳教育】

- ・学校評価アンケートの結果

該当項目… (生徒) 相手を思いやり、寄り添う行動ができているか。
意欲的に道徳の授業を受けているか。
道徳の授業を今後の生活に活かしているか。
(教職員) 自分を大切にすると共に、他者への尊敬・人権の尊重など、実践的態度を養えているか。
道徳の授業は、年間計画に基づいて実施され、実践力を身につけていくよう指導を工夫しているか。

【キャリア教育】【保幼中連携・地域連携】

- ・全国学力学習状況調査（質問紙調査）

該当項目… (29) 今住んでいる地域の行事に参加している

(30) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある

- ・学校評価アンケートの結果。(生徒・保護者・教職員)

該当項目…問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。

総合的な学習の時間は計画的・系統的に実施され、課題を発見し、解決する力を身につけていくよう指導を工夫しているか。

中間評価

各種指標結果（%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算）

（下線は、今後の課題の対象と考える項目）

【授業改善】【自学自習の習慣化・個別最適な学びと協働的な学び】

- 学校評価アンケート結果 ※()内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。
- ・「授業がわかりやすい」 …3 学年とも 85%以上、保護者 90.5%、教職員(伸ばす学習を展開) 95.5%
 - ・「授業に意欲的に取り組んでいる」 …3 学年とも 85%以上、保護者 86.4%、教職員 100%
 - ・「授業での話し合い活動に積極的に参加している」 …1 年 79%、 2 年 84.4%、 3 年 87.7%、教職員 (場面設定) 95.5%
(R3 年度 1 年 86.5% (83)、 2 年 76.1% (68.6)、 3 年 92% (91.2)、教職員 (場面設定) 100%、 R4 年度 1 年 86.8% (86)、 2 年 87.2% (81.7)、 3 年 85.3% (79.5)、教職員 (場面設定) 89.5% (85.7) ※ () 内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。)
 - ・「意見や考えを人前で発表している」 … 1 年 68.5%、 2 年 68.7%、 3 年 66.3%

- (R3 年度 1 年 60.3% (60.6)、2 年 52.1 % (49.7)、3 年 75.1% (72.6)
- R4 年度 1 年 70.2%、2 年 70.4 % (62.4)、3 年 67.0% (63.1) ※ () 内の数字は前期の結果。)
- ・「主体的・対話的で深い学びに向けた問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業をおこなっている」教職員 90.9%
 - ・「GIGA 端末を利用して意欲的に学習に取り組んでいる」… 1 年 81.4%、2 年 92.2%、3 年 87.7% 教職員 77.3%
 - ・「予習シート・復習シートに取り組んだ」… 1 年 81.5%、2 年 95.1%、3 年 89.3%
 - ・全国学力・学習状況調査（質問紙調査）結果「平日の読書時間が 1 時間以上」… 15.3% (全国 13.8%)
 - ・「家庭学習の習慣が身についている」… 1 年 70.8%、2 年 84.3%、3 年 73.7%
- 学習確認プログラム結果（最新結果、京都市平均との比較）
- ・1 年生…国語、数学共に平均を上回っている… (国語 +2.1、数学 +2.8)
 - ・2 年生…5 教科とも平均を上回っている… (国語 +3.6、社会 +7.8、数学 +7.8、理科 +7.1、英語 +2.8)
 - ・3 年生…5 教科とも平均を上回っている… (国語 +6.4、社会 +6.7、数学 +7.2、理科 +6.1、英語 +8.8)
- 全国学力・学習状況調査結果（京都府平均との比較）
- ・国語・数学・英語ともに京都府平均を上回っている… (国語 +0.8、数学 +1.4、英語 +1.9)
- <全国学力学習状況調査（質問紙調査）より>
- ・「1・2 年の授業で、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたか。」… 82.9% (全国 79.2%)
 - ・「1・2 年の授業で、自分の考えを発表するとき、うまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てを工夫したか」… 60.0% (全国 62.1%)
 - ・「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりできているか」… 80% (全国 79.7%)
 - ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」… 80.7% (全国 72.6%)
- 【人権教育・道徳教育】**
- ・「自分は相手を思いやり、寄り添う行動ができる」… 1 年 91.2%、2 年 93.2%、3 年 98.1%、教職員 100%、保護者 88.8%
 - ・「道徳の授業では意欲的に取り組んでいる」… 1 年 95.5%、2 年 91.1%、3 年 95.9%
 - ・「道徳の授業を今後の生活に生かしている」… 1 年 89.2%、2 年 90.2%、3 年 92.6%
- 【キャリア教育】【保幼中連携・地域連携】**
- <全国学力学習状況調査（質問紙調査）より>
- ・(29) 今住んでいる地域の行事に参加している 36.6% (全国 48.0%)
 - ・(30) 地域や社会をよくするために何かしてみたい 63.7% (全国 63.9%)
- <学校評価アンケートより>
- ・総合的な学習の時間は計画的・系統的に実施され、課題を発見し、解決する力を身につけていくよう指導を工夫している。… 教職員 100%
 - ・生徒は地域を愛し、地域のために役に立とうと思っている。… 1 年 76.1%、2 年 83.3%、3 年 90.2%、教職員 72.7%

分析（成果と課題）

- 学力向上に向けて、基礎基本の定着は概ね取り組めていると考える。3学年とも学習にも前向きに取り組める環境ができていることが大きな要因になっていると思われる。また、学習確認プログラムに向けての取組（予習・復習シート）もやりきらせる指導を行っているため真面目に取り組んだ生徒は結果に結びついている。しかし、学習確認プログラムの指標を例年と比較してみると、全市平均を上回ってはいるものの、全体的に下降傾向にあり、全市平均に近づいている教科もある。基礎基本の定着をはかる授業や学習活動の在り方を、今一度見直す必要がある。
- 全国学力・学習状況調査から、3年生は学校の授業以外に、平日1日あたりの学習時間（塾などを含む）が「2時間以上」34.8%（全国33.7%）という結果が出ており学習に多くの時間を費やしている生徒が多いことがわかる。しかし、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した生徒は51.2%（全国55.0%）で全国平均を下回っている。能動的・主体的に、計画性をもって学習に取り組む姿勢を養う工夫が必要である。
- 教員側は話合い活動や発表の場の設定に積極的に取り組んでいるが、生徒たちは自信をもって人前で発表できるまでにはまだ至っていない。生徒の実態を見極めながら学習活動や発表形態に工夫を取り入れていきたい。
- GIGA端末を有効活用することで、生徒の学習意欲の喚起に役立つことがわかった。今後は情報活用の視点から基礎・基本の定着やより探究的な学習活動にも取り組ませたい。
- 全国学力・学習状況調査では「平日の1日あたりの読書時間が1時間以上」…15.3%（全国13.8%）という結果であった。学校図書館の活用も促しながら読書の習慣を身につけさせたい。
- 道徳の授業で学んだことを今後の生活に生かしていきたいと考えている生徒が3学年とも90%に近く、年々増えている。今後もすべての学校教育のなかで道徳教育を推進していきたい。
- 総合的な学習の時間が充実した結果、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動が活性化した。今後もこの「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」の探究のサイクルを大切にした授業実践に努めたい。
- 地域との関わりについてはR3年度より総合的な学習の時間で取り組んでいる。学年が上がるにつれ、地域に役立ちたいと考える生徒が増えている。今後も生徒の社会参画しようとする態度を育成するような授業・しきけを模索したい。

分析を踏まえた取組の改善

本校生徒は落ち着いた学習環境のもと、また、学校外での学習にも意欲的に取り組んでいる結果、基礎・基本を身につけている生徒の割合は多いことがわかる。しかしながら家庭学習の習慣が身についたと感じている生徒は8割に満たない学年が多く、自律した学習者を育成するための工夫が必要だと考える。8割以上の生徒は「授業がわかりやすい」と感じているものの、自信を持って人前で発表することに躊躇している様子もわかった。自信のなさは自己肯定感とも関係していると思われる所以、学級での人間関係づくりなどに工夫をするとともに、毎時間の授業では生徒に「わかった」という実感を伴わせるような、わかりやすい授業を展開するための工夫・改善をめざしたい。また、GIGA端末を効果的に活用することで個別最適化をめざした授業改善にも取り組んでいきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標**【授業改善】【自学自習の習慣化・個別最適な学びと協働的な学び】**

- ・学習確認プログラムの分析結果。

- ・学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）
 - 該当項目…授業はわかりやすいか。生徒は意欲的に授業を受けているか。
授業での話し合い活動に積極的に参加しているか。
 - 生徒は自分の考えや意見を発表することが得意であるか。
問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。
 - 予習シートを仕上げたか。復習シートに取り組んだか。計画通りに学習を進めたか。
 - GIGA 端末を使用して、学習に意欲的に取り組めたか。
 - 家庭学習は行っているか。
- 【人権教育・道徳教育】
- ・学校評価アンケートの結果。
 - 該当項目…自分は相手を思いやり、寄り添う行動ができるか。
意欲的に道徳の授業を受けているか。
 - 道徳の授業を今後の生活に生かしているか。
- 【キャリア教育】【保幼中連携・地域連携】
- ・学校評価アンケートの結果。
 - 該当項目…総合的な学習の時間では、問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。
地域を愛し、地域のために役に立とうと思っているか。

学校
関
係
者
評
価

学校関係者による意見・支援策

自ら積極的に発信・発言することを目標としているところがあるが、その力を伸ばし切れていない現状があり、授業中などの生徒の発言については、今後もそのことは課題になると思われる。そういう中の要因として、一言で他の仲間を傷つけたり、自信がなかつたり、否定的なことを言われたりすることを、大人が思っている以上に生徒は敏感に感じているのではないか、というご意見をいただいた。また、生徒の言葉には間違いがあるかもしれないが、先生方はしっかりとその意図を聞いていただき、言葉の言いかえなども含め、場面場面で、生徒に何がどう間違っているのか、しっかり伝え、自ら発言する場面や内容を精査できる力を持つてほしい、とのご意見もいただいた。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

(%の数値は「そう思う」「大体そう思う」の合算)

(斜字は中間評価時から特に改善が見られた項目 下線は、今後の課題の対象と考える項目)

【授業改善】【自学自習の習慣化・個別最適な学びと協働的な学び】

○学習確認プログラムの分析結果。(最新結果)

- ・1年生…5教科とも平均を上回っている…(国語+2.7、社会+2.8、数学+13.4、理科+5.5、英語+2.8)
- ・2年生…5教科とも平均を上回っている…(国語+3.9、社会+4.9、数学+7.8、理科+8.0、英語+2.6)
- ・3年生…5教科とも平均を上回っている…(国語+5.5、社会+5.7、数学+5.4、理科+9.0、英語+7.5)

○学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）※()内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。

- ・「授業がわかりやすい」…3学年とも 85%以上、保護者 90.2% (90.5)、教職員(伸ばす学習を展開) 95.5%
- ・「授業に意欲的に取り組んでいる」…3学年とも 85%以上、保護者 81.6% (86.4)、教職員 100%

- ・「問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っている」教職員 95.5%
- ・「予習シート・復習シートに取り組んだ」…1年 92.9%(81.5%)、2年 93.3%(95.1%)、3年 89.3%
- ・「自分は家庭で学習をする習慣がついている」

…1年 77.7%(70.8%)、2年 75.3%(84.3%)、3年 88.5%(73.7%)

| | | 1年 | 2年 | 3年 | 保護者 | 教職員 |
|--|------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|
| | | R5年度 | 85.7% (79%) | 82.1% (84.4%) | 88.5% (87.7%) | |
| | R4年度 | 86.8% | 87.2% | 85.3% | | 89.5% |
| | R3年度 | 86.5% | 76.1% | 92% | | 100% |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 保護者 | 教職員 |
| | R5年度 | 67.0% (68.5%) | 70.8% (68.7%) | 69.1% (66.3%) | 71.3% (得意) | 90.9% (力がつく) |
| | R4年度 | 70.2% | 70.4% | 67.0% | 50.8% | 90.9% |
| | R3年度 | 60.3% | 52.1% | 75.1% | 49% | 100% |

- ・「GIGA 端末を利用して意欲的に学習」…1年 88.4%(86.0%)、2年 89.1%(84.7%)、3年 87.6%(77.2%)
- 教職員 72.7%(77.3%)

【人権教育・道徳教育】

- 学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）※()内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。
- ・「自分は相手を思いやり、寄りそう行動ができている」

…1年 95.5%(91.2%)、2年 92.3%(93.2%)、3年 97.3%(98.1%)、

保護者 82.3%(88.8%)、教職員 95.4%(100%)

- ・「道徳の授業を生活に生かしている」…1年 88.4%(89.2%)、2年 89.5%(90.2%)、3年 93.8%(92.6%)

【キャリア教育】【保幼中連携・地域連携】

- 学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）※()内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。
- ・「総合的な学習の時間は計画的・系統的に実施され、課題を発見し、解決する力を身につけていくよう指導を工夫している」…教職員 100%(100%)
- ・「地域を愛し、地域のために役に立とうと思っている」…1年 77.7%(76.1%)、2年 85.7%(83.3%)、3年 92.1%(90.2%)、保護者 65.2%(59.7%)、教職員 90.9%(72.7%)

| 自己評価 | 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 |
|------|---|
| | <p>○学力向上に向けて、基礎基本の定着は概ね取り組めていると考える。しかし、全市平均を上回ってはいるものの、ゆるやかに下降傾向にある。基礎・基本の定着に今一度立ち返らなければならない。学習確認プログラムに向けての取組（予習・復習シート）もやりきらせる指導を行っているため真面目に取り組んだ生徒は結果に結びついている一方で、家庭で学習する習慣が身についているとする生徒は3年生を除き80%未満である。家庭ではなく、学習塾の自習室などの活用が多いことがその要因かもしれない。どこで学ぶにしても、「主体的に」学べる生徒の育成が、基礎・基本の定着にもつながっていくと考える。</p> <p>○意見や考えを人前で発表しているとした生徒は、前期に比べるとわずかではあるが改善がみられている。しかしながら教員の認識とはずれが大きい。「発表」と一言で表しても、授業中に挙手をして発言する「個」による発表から、グループで創作・表現する「集団」による発表まで多岐に渡り、おそらく生徒の回答は「個」の発表について考えられたものが多く、教員は「個」と「集団」双方をイメージして回答していると思われる。いずれにしても、生徒たちの自己肯</p> |

定感をはぐくむとともに、自分をのびのびと表現する勇気が湧き出るような学級・学年集団の土壤を築き、今後も生徒の実態を見極めながら学習活動を工夫していきたい。

○GIGA端末の活用率について、若干の下降傾向が見られたところはあるものの、昨年度と比較すると、生徒・教師ともに学習活動にGIGAを活用している様子がうかがえる。小学校からの積上げもあり、入学時点で高い情報活用能力を有している生徒が多い。現在は調べ学習や発表ツールとして活用する場面が、加えて今後は、基礎・基本の定着において生徒の学びをフォローアップ、アシストできるような、GIGA端末の活用にも取り組ませたい。

○道徳の授業で学んだことを今後の生活に生かしていきたいと考えている生徒が昨年度までは3学年とも90%以上であったことに対し、後期は90%を下回る学年が増えた。一般論としての道徳ではなく、生徒たちの生活にも引き寄せ、他教科での知識も駆使しながら考えを深めていくところから、生徒たちは心の根を深く広く張っていくものだ、という原点にもう一度立ち返り、教材・授業研究を行う必要がある。

○地域との関わりについては「総合的な学習の時間」での取り組みにより、より身近に感じている生徒が増えている。今後も生徒の社会参画を促すような授業・しきけを模索したい。

分析を踏まえた取組の改善

基礎・基本の定着を徹底するとともに、主体的に学び続ける生徒の育成に励みたい。さらに、学年・教科を越えた学習規律や授業スタンダードを打ち出すなど、不断の授業改善に取り組みたい。また、「総合的な学習の時間」を核として、多様な他者との出会い・かかわりを創出することによりスマーリステップでの成功体験をいくつも味わわせることにより自己肯定感の向上を図り、生徒の発信力の向上に努めたい。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

学年が上がるごとに数学の数値が下がってくることが気になる、との意見があった。指数などは出ないのか、との質問には、確認プログラムの結果票に「がんばりグラフ」があることなどを紹介し、前回のテストと比較して、自分の伸びがわかりやすく提示されていることなどもお伝えした。

今後とも学習指導含め、学力向上の取組を続けてほしい、との意向があった。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

豊かな心を育てる「関係」を創り出し、「自尊感情」や「自己有用感」を高め、自他を大切にし、高め合う「態度」を育てる取り組みを推進する。

具体的な取組

- ① 道徳の時間を中心としたしなやかな道徳教育の実践を推進し、他人を思いやる心や他者を認める心と、人と人との絆の大切さを感じさせながら、自らの生活や人生をより良くするために自ら正しい判断ができる力の育成を図る。
- ② 命を大切にする心や他人を思いやる心、感動する心など、生徒の豊かな人間性の育成を図る。
- ③ 自己有用感や自己肯定感などの自尊感情を持たせる中で、他人の良さを見つけようと努め、自分もまた周りから大切にされているという実感を持ち、「自信と誇り」を持って安心して自らの力を発揮できる集団づくり・学級経営を実践する。
- ④ 様々な教育活動を通じて、障がいの特性や障がいのある生徒の困りについて理解と認識を深め、互いに尊重し、共に成長し合う教育を推進する。

- ⑤ 授業やワークシートは対話を通して生徒が学び合い「深い学び」につながるよう、また生徒が自らの学びを主体的に把握し、その学びを実践につなげられるよう、単元や題材を構成する。
- ⑥ 「こころのあゆみ」に関して、学校教育目標、学級目標をもとに、道徳の授業を通して自分自身の現状を捉え顧みて、年間を通して自己目標を設定させる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 年間計画に基づいて道徳の授業が実施されているか。
- 道徳的価値の理解や道徳的態度・実践力が身につくよう指導されているか。
- 自尊感情（自己肯定感と自己有用感）を高める集団づくり、学級経営ができているか。
- 日常の清掃を積極的に行い、学校の環境をよりよくしていく努力をしたか。
- 進んであいさつができるか。
- 普段の交流事業や学校行事、生徒会活動における総合支援学校との交流。
- 道徳の授業におけるワークシートの自己評価ができるか。
- 「こころのあゆみ」における振り返りの変容。

中間評価

各種指標結果 (%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算)

(下線は、今後の課題の対象と考える項目)

- 学年教員で協力しながら、すべての項目について、年間計画に基づき指導できている。

※学校評価アンケート結果

- ・生徒……「道徳の授業は今後の生活に活かしている」 1年 89.2%, 2年 90.2%, 3年 92.6%
- 「道徳の授業では意欲的に取り組んでいる」 1年 95.5%, 2年 91.1%, 3年 95.9%

- 自尊感情について

※学校評価アンケート結果

- ・生徒……「上京中学校は相手を思いやり、寄り添う行動ができる学校」
1年 94.7%, 2年 96.1%, 3年 98.4%
- 「自分は周囲から大切にされている」 1年 91.3%, 2年 95.0%, 3年 95.9%
- 「自分は相手を思いやり、寄り添う行動ができる」 1年 91.2%, 2年 93.2%, 3年 99.1%
- ・保護者……「子どもは、自分の長所を知り、自分のよさを生かそうと努力している」 77.8%
(R2年度 70.1% R3年度 76.7% (69.6), R4年度 75.4%)
- 「子どもは、自分が大切にされていると感じている」 87%
- 「子どもは、人を大切にする言動をしている」 88.8%
- ・教職員……「生徒は、自分を大切にすると共に他者への尊敬・人権の尊重など、実践的態度が養われている」 100%
- 「本校では、生徒の良いところを認めて適切に評価している」 100%
- 「本校では、生徒が学年やクラスの一員として個性を十分生かせるような取り組みをしている」 100%

※全国学力・学習状況調査 生徒質問紙 結果 (現3年生)

- ・「自分にはよいところがあると思いますか」 74.0% (京都府公立 78.1%, 全国 80.0%)
- ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」 85.9% (京都府公立 85.2%, 全国 88.1%)
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

97.8% (京都府公立 94.7%, 全国 95.5%)

- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」 95.6% (京都府公立 94.6%, 全国 94.6%)

○美化意識

※学校評価アンケート結果

- ・「掃除など、きれいな学校になるように努力した」 1年 92.1%, 2年 94.1%, 3年 97.5%

○あいさつ

※学校評価アンケート結果

- ・「あいさつのできる学校・生徒」 1年 93.9%, 2年 93.2%, 3年 94.3%, 保護者 85.6%
教職員 80.9% (R4年度 68.2%)
- ・「自分はあいさつができている」 1年 92.1%, 2年 93.1%, 3年 95.1%

自己評価

分析 (成果と課題)

○生徒が道徳の授業の重要性を感じ、生活に活かしていこうという態度の向上が見られた。1年生に関しては、「意欲的に取り組んでいるが、生活に活かすこと」が結びついていない生徒もいる。

○昨年は、あいさつに関して生徒と教職員に認識の差があったが、今年は前期の段階で、8割の教職員が「できている」と評価している。ただ、生徒、保護者の数値よりは低い。

○全国学力・学習状況調査からは、自尊感情に関わる質問に対し、本校生徒の回答は府や全国と比較すると若干低い数値を示しているが、学校評価の「自分は周囲から大切にされている」という項目に関しては高い結果となった。自分の良いところは、自分では見つけられないが、周囲から大切にされていることは理解している。これからも子どもが自分の長所を見つけ、短所も含めてありのままの自分自身を認められるように、適切な評価を与えることが課題である。子どもの自尊感情を高めるような活動や、適切な声掛けをできるように大人が意識する必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

○道徳の教材を自分ごとに捉え、実生活の中に置き換えて考えさせる発問や授業の工夫を行っていく。

○保護者・教職員をはじめ子どもの周囲の大人たちは、子どもが何を求めているのかをよく見極めながら支援を行う必要がある。子どもへの接し方や声掛けが、子どもの望みをかけ離れていないか、子どもの心に寄り添い指導・助言を行っていく。

○環境が人に与える影響は決して小さくないと思うので、まずはそれぞれの教室の美化から見直していきたい。誰かにとっては快適だが、それを苦痛と感じる人もいる環境ではなく、みんながある程度快適と感じる環境づくりを目指していく。

○子どもにあいさつの意義について考えさせ、実践させる機会をこれまで以上にもつとともに、日ごろの生活はもちろん、委員会や部活動の中でも、積極的にあいさつができるよう、折に触れて子ども達と共に考えていく。

○道徳通信を発行し、家庭での保護者と子どもの対話と橋渡しをしていく。また、保護者にも子どもが受けている道徳の授業について関心をもっていただく機会を増やしていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

○道徳通信を学期に一回発行できたか。

○自尊感情（自己肯定感、自己有用感）を高める集団づくり、学級経営を行い、それらの様子を積極的に保護者に伝えられているか。

| | |
|-----------------------------|---|
| | ○あいさつについて生徒が考え、実践する場面を学級・部活動・委員会等で与えられているか。 |
| 学校 関 係 者 評 価 | <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>あいさつについて、生徒は、学校外の大人に対して、認識している大人には外で会った時にもあいさつをするが、例えば、中学校に出入りしている業者の方や、保護者に対しては、なかなかあいさつができないので、自分の学校に係る大人に対してもあいさつをする明確な意識をもち、自分からあいさつができるようになってほしい、「学校に来る人には、みんなあいさつをしよう」といった呼びかけを教員から継続してほしい、とのご意見をいただいた。加えて、小学校は幼さも残る中、元気にあいさつができる。また、高校生になると、意識を持ってあいさつができるようになる生徒が多く、中学生はその合間で、自意識がある時期なのかもしれない、仕方がない部分もあるのでは、などのご意見があつた。</p> <p>PTAを中心に、大人の朝のあいさつ運動など、今後も継続し、学校と一緒にになって支援していきたい、などの意見もいただいた。</p> |

最終評価

| | |
|---|---|
| | (中間評価時に設定した) 各種指標結果 |
| | (%の数値は「そう思う」「大体そう思う」の合算) |
| | (斜字は中間評価時から特に改善が見られた項目 下線は、今後の課題の対象と考える項目) |
| | () 内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。 |
| ※学校評価アンケート結果 | |
| ・生徒…… 「自分は道徳の授業を今後の生活に活かしている」 | 1年 88.4% (89.2)、2年 89.5% (90.2)、3年 93.8% (92.6) |
| | 「自分は道徳の授業では意欲的に取り組んでいる」 |
| | 1年 91.8% (95.5)、2年 91.4% (91.1)、3年 93.8% (95.9) |
| ○自尊感情について | |
| ※学校評価アンケート結果 | |
| ・生徒…… 「自分は周囲から大切にされている」 | <u>1年 88.4% (91.3)</u> 、2年 92.4% (95.0)、3年 95.6% (95.9) |
| | 「自分は相手を思いやり、寄り添う行動ができている」 |
| | 1年 95.5% (91.2)、2年 92.3% (93.2)、3年 97.3% (99.1) |
| ・保護者…… 「子どもは、自分の長所を知り、自分のよさを生かそうと努力している」 | <u>78.4% (77.8)</u> |
| | 「子どもは、自分が大切にされていると感じている」 92.3% (87) |
| | 「子どもは、人を大切にする言動をしている」 92.3% (88.8) |
| ・教職員…… 「生徒は、自分を大切にするとともに他者への尊敬・人権の尊重など実践的態度が養われている」 95.4% (100) | |
| | 「本校では、生徒のよいところを認めて適切に評価している」 95.4% (100) |
| | 「本校では、生徒が学年やクラスの一員として個性を十分生かせるような取り組みをしている」 96% (100) |
| ○美化意識 | |
| ※学校評価アンケート結果 | |
| ・「自分は掃除など、きれいな学校になるように努力した」 | |

1年 91.9% (92.1)、2年 92.4% (94.1)、3年 100% (97.5)

○あいさつ

※学校評価アンケート結果

- ・生徒……「上京中学校はあいさつができる学校・生徒」

1年 94.7% (93.9)、2年 94.3% (93.2)、3年 92% (94.3)、保護者 86.1% (85.6)、
教職員 59% (80.9)

「自分はあいさつをしている」

1年 95.5% (92.1)、2年 95.2% (93.1)、3年 94.7% (95.1)

自己評価

分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

○中間評価時の自尊感情についての項目は、どの学年も九割を超えていたが、一年生は若干低下している。

○道徳の学習については、どの学年も9割以上の生徒たちが意欲的に取り組んでいる。

○人権感覚についての項目（相手を思いやり・・・）ではどの学年も高い数値を示している。

○あいさつに関する項目については、1・2年生で中間評価時より改善が見られ、全学年9割が肯定的な回答をしている。生徒会の挨拶運動の取り組み等が一助となっていると思われる。それにも関わらず、保護者や教職員の肯定的な回答は急激に低下している。ここに、生徒たちと周囲の大人の認識に「ずれ」があることがわかる。

○美化意識については、中間評価時とほぼ同じ数値を維持しながら、3年生については100%を達成している。環境委員による美化活動や日頃の教職員の取り組みの成果だと考えられる。心地よい環境を生徒たちの手で作り、維持するための取り組みを、今後も継続して取り組みたい。

分析を踏まえた取組の改善

○自尊感情、人権感覚を高める集団作りや道徳授業の質的改善に向けて、学年会や教職員研修等の場でもっと気軽に議論や情報交換を行いながら、共に学び続ける意識や機会をもつ。その上で、持ち回り道徳やリレー道徳の手法を取り入れて、多面的・多角的な考えがより生徒に定着するような授業を考えていく。

○挨拶の重要性や、あいさつの仕方などは、まずは周囲の大人が「良い挨拶」の見本になることが必要だと考えられる。生徒が自信をもって挨拶できるよう、日々の授業で声をかけたり、生徒会活動を通じて実践したりしていくことが必要である。良い挨拶ができた際には、「今の挨拶いいね」と、ほめて評価することも有効かと考えられる。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

生徒のあいさつに対する大人の反応やほめ言葉はとても大切だ、というご意見をいただいた。また、まわりの生徒にお手本となるようなあいさつをする仲間がいると、なお相乗効果があり良いのでは、とのご意見もいただいた。

学校側からは、マスクが取れるようになってから、段々と声が出てきた、声が出ずとも会釈や目線で接する生徒もいる、など、あいさつの根柢の意識はあることがわかることなど、学校だよりにも掲載したことも紹介した。さらに、ほめられるとうれしい気持ちになり、生徒の自己肯定感も上がるのでは、とのご意見もあった。

自己肯定感の低さについては、保護者の価値観に縛られ、自分がそこまで到達していない、自分に自信が持てない、などの原因もあるのでは、との意見も出た。今後も成功体験、行事などを通して、様々な場面を作り生徒の心を育ててほしい、とのご意見をいただいた。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

生徒・教職員ともに自らの心身に対する意識を深めるとともに、体力の向上に向けて健康な生活を実践できるよう知識を身につけ、実践を通して健やかな体を育成する。

具体的な取組

- ① 運動やスポーツに親しむ気運を高め、「1校1プラン」の計画をもとに体力の向上とともに、運動の楽しさや喜び、達成感・成就感等を味わい、生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践できるよう、体育学習や運動部活動の一層の充実を図る。
- ② 体育学習や部活動の実施にあたっては、組織的・計画的な安全管理を徹底するとともに、部活動の運営にあたっては、適切な休養日や活動時間を設け、安全で、より充実した活動となるよう学校全体で取組を進める。
- ③ 早寝、早起き、朝ごはんなどの基本的生活習慣をさらに確立するために実態調査を行うとともに保護者や家庭への啓発を図る。
- ④ 飲酒・喫煙・薬物に関する教育、性教育、エイズ教育等の実施により、正しい知識の理解を図り、心や体を大切にする教育を保護者、生徒に向けて推進する。
- ⑤ 学校教育全体を通して防災教育や防災管理を充実させ、自ら命を守る主体的態度や安心で安全な社会づくりの意識を高める。
- ⑥ 危機管理マニュアルに基づく研修や訓練実施し、教職員の防災・防犯意識を高める。
- ⑦ 感染症予防に対する正しい知識のもと、自己の体調や周りの状況に応じて対応できる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 体力テストまたは全国学力（3年）・運動能力（2年）調査
- 生活習慣アンケート（中3の全国調査にて考察）
- 薬物乱用防止教室、性教育において正しい知識を身につけ、自らの心身を大切にしようとしているか。
- 避難訓練において自ら命を守る主体的態度が育っているか。
- 教職員研修・訓練の実施

中間評価

各種指標結果（下線は、今後の課題の対象と考える項目である）

○全国学力・学習状況調査の結果（3年生対象）より

- ・「朝食を毎日食べていますか？」…「食べている」、「どちらかといえば食べている」 85.9%（全国 91.2%）
- ・「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか？」…「寝ている」、「どちらかといえば寝ている」 83.7%（全国 78.0%）
- ・「毎日同じくらいの時間に起きていますか？」…「起きている」、「どちらかといえば起きている」 94.8%（全国 91.3%）
- ・2学期がスタートして、生活リズムの変化から体調不良や感染症に罹患する生徒が増えた際に、睡眠について保健だよりを発行した。

○体力テストの結果より

- ・今年度は、コロナが第5類に分類され、制限なくすべての種目において実施することができた。（この体力テストは全国共通のもので、総合得点をもとに総合評価をA～E段階に分けられる）

- ・本校の集計より、本校の昨年の結果と比較し、男子ではA・B層が17.1%から24.7%と約7%の増加、D・E層が47.7%から40.5%と約7%の減少。女子ではA・B層が39.8%から36.0%と約4%の減少、D・E層が29.8%から32.3%と微増。特に2年生女子だけで見るとD・E層が45%を超えているのが気になる。

- ・上記は本校の記録を昨年度のものと比較したもので、全国平均との比較ではない。

○感染症予防

- ・コロナが第5類に分類されてからはマスクの着用は本人の判断となつたが、学校としては手洗いや換気を掛けた。昼食時の黙食も強制はしないが、生徒たちは黙食の意識は強い。
- ・保健室では生徒がベッドを使用したら、熱のあるなしや使用時間に関わらず、シーツやタオルケットなどすぐに取り換えるようにしている。

○避難訓練の実施

- ・1学期は予定通り実施できた。

○薬物乱用防止教室、性教育について

- ・非行防止教室は2年生を対象に、薬物乱用防止教室は3年生を対象に長期休みとなる夏休み前に実施予定できた。
- ・2年生の性教育について助産師さんを招いて講演していただくことになっている。今年度も昨年同様助産師さんを講師に迎え体育館で実施予定である。

自己評価

分析（成果と課題）

- 「朝食を食べる」ことについては、毎年ほぼ同じような結果で、高い水準を保っていたが、昨年に続き、全国平均91.2%を下回った。本校の比較で昨年度は93.4%だったので、7.5%の低下である。
「起床時間はいつも（だいたい）同じ時間である」と答えている割合は全国平均を5%上回り、「寝る時間はいつも（だいたい）同じ時間である」では全国平均の3%上回った。昨年度まではほぼ全国平均か下回っていたが、改善が見られた。ただし、この結果からは睡眠時間が十分であるかどうかはわからない。

- 体力テストの結果より、男子のD・E層の改善が見られたもの、2年生女子のD・E層が45%を超える数字となっており、相変わらず体力の二極化が目立つ結果となっている。

- 避難訓練については、平常通り実施し、ほぼ3分以内に全員がグラウンドに集合することができた。より早く落ち着いて安全に集合できることを目指す。

- 今年度は教職員研修として「事故の未然防止」・「緊急時の対応」（HANAモデル）について共通理解を図るための研修を11月に実施する予定である。

- 学校行事においては、感染対策を行いながらコロナ前と同規模で予定通り実施の方向である。

分析を踏まえた取組の改善

- 本年度より昼休みの学級ボールの貸し出しを再開し、ボールで遊ぶ姿が多くみられるようになってきたので、継続していく。

- 短学活での食育や保健だより（朝食の重要性や睡眠について）、学校だよりでの呼掛け

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・生活習慣アンケートでは睡眠時間を質問項目に入れ、学習時間、スマホや携帯の使用時間、朝食の有無を中心に行う。

| | |
|-----------------------------|--|
| 学校 関 係 者 評 価 | 学校関係者による意見・支援策 |
| | <p>心、身体、頭、バランスよく動かしておくことが、コロナ禍を通して大切だと感じている。それができるのが、学校生活であるので、引き続きバランスよくいろいろな取組をしてほしい。また、体力づくりの活動や薬物防止などに、何度も啓蒙活動などを続けてほしい、などのご意見をいただいた。</p> <p>小学校の校長先生からは、就学前からの積み上げが、体力面にも影響しているのでは（コロナ禍において、様々な制限があったので）。小学校でも中間休みなど運動量を増やすようにしているが、小学校でも体力向上は課題であると感じている。などのご意見があった。</p> |

最終評価

| | |
|--------------|---|
| 自己 評 価 | (中間評価時に設定した) 各種指標結果 |
| | <p>生活習慣アンケートの代わり、全国体力・運動能力、運動習慣等調査、体力テスト京都市結果より考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一週間の総運動時間（体育の授業は除く）について、420分以上運動する、京都市平均男子：75.2%に対し、本校2年男子59.4%。京都市平均女子：54.6%に対し、本校2年女子44.9%。また一週間通して0分（運動をしない）は京都市平均男子：10.2%、本校男子：17.2%、京都市平均女子：23.2%、本校女子：32.7%と体育の授業以外は運動しない間女子が3人に1人はいることになる。 ・睡眠時間について、中学生の睡眠時間として推奨される8時間以上について京都市平均男子：31.6%、本校2年男子：29.7%。京都市平均女子：22.9%、本校2年女子：31.4%。本校2年生は約7割が8時間未満となっている。ちなみに7時間以上の睡眠時間とすると本校2年男子で67.2%、女子で76.5%と約7割の生徒が満たしている。 ・平日の学習以外でのスクリーンタイム（テレビ・DVD・ゲーム機・スマートフォン・パソコンなど）について3時間以上と答えたのが男子：52.3%（京都市平均：55.9%）、女子：39.1%（京都市平均：54.7%）であった。男子の5時間以上という回答が22.2%とかなり高い。 |

| | |
|--------------|---|
| 自己 評 価 | 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○体力テストの結果について、昨年の結果と比較すると学年、性別によって差があるものの、総合評価A～E段階のD・E層については平均すると5%以上減ったことは成果である。 ○学校でのタブレットの使用や学習以外のスクリーンタイムの増加により、視力の低下が心配される。 ○睡眠時間については8時間以上が推奨されるが、習い事の帰宅時間を考えると、8時間の確保は難しいのではないか。また、学年が上がるにつれ、睡眠時間は短くなる。 ○11月に教職員研修として「事故の未然防止」・「緊急時の対応」（HANAモデル）について共通理解を図るための研修を実施。体育健康教育室より主事に来校いただき、体育の授業中にグラウンドで生徒が倒れた想定で、ロールプレイした後、その対応についての検証を行った。本校にはAEDが1つしかなく、現在職員室に置いてあるが、その設置場所についても検討し、教職員の共通理解が必要である。 ○冬休み明けの避難訓練は、石川県能登半島地震の後ということもあり、いつも以上に真剣に取り組み、避難訓練の重要性を再認識する機会となった。 ○コロナによる行動制限が解除されたこともあり、手洗いや換気について生徒も教職員も意識が低くなったように感じる。 ○性教育については各学年予定通り実施。性教育は人権教育にも位置づける。 |

分析を踏まえた取組の改善

- 運動習慣調査の結果から、体育の授業を除く運動時間が0分と回答した2年生が約20%という結果から、自ら運動することを推奨することは大切だが、体育の授業でいかに楽しみながら体力をつけるか、ということを充実させることができが生涯スポーツにもつながっていくと考える。そのためには保健の授業で運動の大切さを学び、体育の授業に結び付けていく。
- タブレットやスマートフォンの使用について、使用時間や姿勢・環境について改善できることを啓発していく。このことが睡眠時間の確保や睡眠の質の向上につながるのではないかと考える。
- 年間を通じて、コロナだけでなく感染症の拡大防止に向けて教職員が予防意識を高くもち、生徒のピアサポートを支えていくようとする。
- 避難訓練や教職員のHANAモデル研修など、日ごろの訓練が緊急時の迅速適切な対応につながるため、今まで通り訓練や研修の意義を確認して継続していく。
- AED設置場所の検討。

学校
関
係
者
評
価

学校関係者による意見・支援策

2年生の結果だが、体育授業以外の運動時間0分が約20パーセント存在することにまず驚いた、というご意見が出た。学年に生徒の様子に様々な差があるが、それをどう育てていくかが課題では、とのご意見もあった。

教職員のHANAモデル研修実施を紹介した中で、生徒にも防災訓練でロールプレイを通して、自分のできることができれば、自己肯定感の高まりにつながるのでは、との意見もいただいた。また、そのロールプレイの中に、地域の方や保護者が入ったり、また、地域の防災訓練などにも中学生が参加したりして、地域の方々とつながりを持つ活動を通して、いろんな視野の広まりも期待できるのでは、とのご意見もあった。

学校を出たあとに地震が起きた場合など、どこに避難したり、どう動いたりするかなどを共通で認識する必要があるのでは、自分で動ける力を持つ必要があるのでは、それは大人にも言えることでは、などのご意見もあった。

(4) 学校独自の取組

重点目標

小中一貫教育<K(烏丸) K(上京) P(プロジェクト)>における重点目標を「自らの未来を切り拓き、しなやかに生きる子どもの育成」と設定し推進する。

具体的な取組

- 小中一貫教育における「目指す子ども像」を踏まえ、以下の取組を行う。
 - ・人を大切にする。
 - ・自分の考えを表現する。
 - ・あいさつをする。
 - ・地域を愛する。
 - ・進んで学ぶ。
- ① 小中の教職員が連携し合い、「中1ギャップ」の解消を念頭に置き、入学後も引き続き教科指導や生活指導を行う。
 - ② 新入生の中学校入学に対する不安を取り除くために、部活動体験や授業体験、生徒会による学校紹介等の取組を行う。
 - ③ 授業交流や学力分析を通して、カリキュラムの連続性を考える。
 - ④ 保幼小中合同で地域行事に参加し、ブロックでの家庭・地域との連携を進める。
 - ⑤ 保幼小中合同研修会や小中間での公開授業などを進め、連携を深める。(GIGAスクールでの連

携を系統的に図る)

- ⑥ 「目指す子ども像」について、学校評価アンケートを検証し、結果から9年間の子どもたちの学び・成長を分析する。
- ⑦ 学校ブロックにある保育所・幼稚園（鶴山保育所・京極幼稚園・みつば幼稚園）との連携を推進する。

（取組結果を検証する）各種指標

- 小中一貫教育構想図に示した「めざす子ども像」について、小中で共通のアンケート項目を分析する。（共通項目：人を大切にする。あいさつをする。進んで学ぶ。自分の考えを表現する。地域を愛する。）
- 小中連絡会や校長会、教頭会、各部会を計画的に実施することができたか。
- 小学校と中学校合同の研修会や、授業・部活動体験を行うことができたか。
- 学校だよりやホームページ等でKKPの取組を情報発信することができたか。

中間評価

各種指標結果（%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算）

（下線は、今後の課題の対象と考える項目）

- ① 小中一貫教育構想図に示した「めざす子ども像」について

「地域を愛する」生徒の育成について

＜全国学力学習状況調査（質問紙調査）より＞

- ・(29) 今住んでいる地域の行事に参加している 36.3%（全国 38.0% 京都府 37.6%）
- ・(30) 地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思うか 63.7%（全国 63.9% 京都府 62.2%）
- ・(32) 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。 65%（全国 63.2% 京都府 61.8%）

＜学校評価アンケートより＞

- ・生徒は地域を愛し、地域のために役に立とうと思っている。

… 1年 76.1%、2年 83.3%、3年 90.2%、保護者 59.7% 教職員 72.7%

- ・総合的な学習の時間は計画的・系統的に実施され、課題を発見し、解決する力を身につけていくよう指導を工夫している。…教職員 100%

- ② 小中連携については、KKP 校長会・KKP 教頭会・教務主任会・生徒指導部会・研究部会などを定期的に行い情報交換等を実施した。

- ③ KKP 夏季合同研修会を行い、保育園の取り組みから保幼小中の共通理念等を確認した。

KKP 夏季合同研修会について（運営方法 講演会・分散会についてアンケート結果）

よかったです 中学校 100% 小学校 93% 保育園幼稚園 100%

- ④ 随時、学校だよりや学校ホームページであいさつ運動など、KKP の取り組みについて情報発信をしている。

| | |
|------|--|
| 自己評価 | 分析（成果と課題） |
| | ① 地域との関わりでは、「生徒は地域を愛し、地域のために役に立とうと思っている」3年生の割合は 90% をこえている。これは 3 年間総合的な学習の時間を続けてきた成果と言える。しかし、具体的に自分が何かしているというところにまでは至っていないのが現状である。 |
| | ② 小中連携については、主任会を行った後に主任同士の連携が深まった。 |
| | ③ KKP 夏季合同研修会では、各校種間の連携が深まったのはよかったですという意見もあったが、分散会で各分野（生徒指導・道徳・総合的な学習の時間など）の先生方でわけて話ができた |

| | |
|-----------------------------|--|
| 学校 関 係 者 評 価 | 方がよかったですという意見もあった。 |
| | 分析を踏まえた取組の改善 |
| | ① 総合的な学習の内容をより多く地域などに公開していく。 ② 各主任会での報告の共通理解を深めていき、小6授業体験や部活動見学につなげる。 ③ 来年度の KKP 夏季合同研修会のあり方を考える。 |
| | (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 |
| | ① 学校評価アンケートの結果。 該当項目…地域を愛し、地域のために役に立とうと思っているか。 総合的な学習の時間では、問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。 ② 小6体験授業や部活動見学の取り組み結果。 |

最終評価

| | |
|--------------|--|
| 自己 評 価 | (中間評価時に設定した) 各種指標結果 |
| | <学校評価アンケートより> ・生徒は地域を愛し、地域のために役に立とうと思っている。 1年 77.7% 2年 85.7% 3年 92.1% 保護者 65.2% 教職員 89.9% (前回) 1年 76.1%、2年 83.3%、3年 90.2%、保護者 59.7% 教職員 72.7% |
| | 分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 |
| | ○生徒・保護者・教職員共に「地域を愛し、地域のために役立とうと思っている」のパーセントが高まっている。保護者で 5.5% 教職員は 17.2% も高まっている。これは学校として「総合的な学習の時間」を核とした教育活動ができている結果と考えられる。 |
| | ○KKP の取り組みはコロナ明けということもあり、コロナ前と同じような取り組みができた事が大きかった。特に小6児童対象の授業体験を中学校で行った事は意味があったと思う。小学校の先生方の協力に感謝している。 |
| | ○また、授業参観や学校行事での PTA の方々の協力も「地域を愛し、地域のために役立とうと思っている」項目の高まりに大きかったといえる。 |
| | ☆課題としては、保幼小中間での公開授業などで、交流を深めていくことが重要だと感じた。 |
| | ☆子供たちが地域行事に参加できるように工夫していくことも必要と感じている。中学生はテストであったり、部活動であったりなかなか行事に参加しにくい現状がある。 |
| | 分析を踏まえた取組の改善 |
| | ○学校間での公開授業に各校種の教職員が参加できるように日程などを調整し、啓発していく。 ○「総合的な学習の時間」の各校の取り組みの分析をもとに、保幼小中での取り組みができないか考察してみる。 ○夏休みなどをうまく活用して、地域と連携できないか考えてみる。 |

| | |
|---------|---|
| | ○部活動の取り組みと地域との連携に関しては、吹奏楽部や美術部などが行っているが、その他の部活動でも何かできることはないか考えてみる。 |
| 学校関係者評価 | 学校関係者による意見・支援策 部活動と地域の関わりを今後も継続してほしい、とのご意見があった。以前は滋野でバレーボールが交通安全教室のイベントに参加したり、他にも吹奏楽部、美術部などが地域の行事に参加したりしてきた。部活動に限らず、地域の行事にボランティアとして中学生を募集し、参加する形もあるのでは、などの意見もあった。 |

(5) 教職員の働き方改革について

| | |
|-------------------------|---|
| 重点目標 | 業務の効率化を図るとともに、自分自身のライフワークバランスについて見つめ直す。 |
| 具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ○日常的に業務時間、退勤時間について呼びかける。 ○会議を精選、効率化する。 ○教職員1人ひとりが、ライフワークバランスの意識を持って業務遂行するように呼びかけ意識づける。 ○<u>OJTを意識した職場環境をつくる。</u> ○会議の時間短縮と行事の精選や準備等の効率化を目指す。 ○保護者連絡ツール「スクリレ」や、採点補助ソフト「百問練習」の有効活用を積極的に行う。 ○完全下校時間を通年午後5時に変更し、教員の部活動指導時間の軽減を図る。 |
| (取組結果を検証する) 各種指標 | <ul style="list-style-type: none"> ○出退勤システムにおける月ごとのデータをもとに、教職員1人ひとりの意識改革を行ったか。 ○会議の資料は事前配布することができたか。また、会議資料などを事前にGIGA端末を用いて、共有できたか。 |

中間評価

| | |
|---|--|
| 各種指標結果 | |
| ○出退勤システムにおける超過勤務者(80時間以上)・時間外勤務時間集計結果(教職員32人) | |
| ・4月… 4人(平均52h1m) 【昨年度9人(平均56h8m)】 | |
| ・5月… 4人(平均55h55m) 【昨年度9人(平均54h41m)】 | |
| ・6月… 7人(平均53h45m) 【昨年度7人(平均56h34m)】 | |
| ・7月… 0人(平均38h18m) 【昨年度0人(平均43h19m)】 | |
| ・8月… 0人(平均17h34m) 【昨年度0人(平均18h55m)】 | |
| ・9月… 10人(平均53h37m) 【昨年度7人(平均53h10m)】 | |
| ・3か月連続80時間以上超過勤務者…3人 | |
| ○職員会議の資料をデータ化し事前に配信、会議に各自統合端末を持参し、資料を検討できている。 | |
| ○教職員の協力により、職員会議・研修会の時間短縮ができた。 | |
| ○昨年度に比べ、働き方改革の意識が上がり、生徒と関わる時間を大切にしつつ、退勤時間の目標を決め、他の仕事の効率化を目指した働き方をする教職員が増えた。 | |
| ○学校評価アンケート(教職員)では、「自分は、ライフワークバランスを考えて、業務の効率化を図 | |

っている」の項目で、「そう思う」「ほぼそう思う」が、重要度は 95.2%、実現度は 86.4%であり、意識の高さがうかがえた。

| | |
|---------------------|---|
| 自己評価 | 分析（成果と課題） |
| | <ul style="list-style-type: none">○出退勤システムの内容から、勤務時間の長くなっている教職員に意識的に声をかけるとともに、仕事量に偏りがないか、などの配慮ができる限り行った。○働き方改革の観点から、研修会の案件の精選・時間短縮を行った。○留守番電話機能の活用や、働き方改革などの流れで、一般家庭が考える教職員の勤務時間の意識が変わりつつあり、勤務時間外の朝早い時間帯や夜遅い時間帯における家庭連絡に対応する機会が減り、さらに、教職員も保護者対応をする時間帯を配慮するようになっている。○超過勤務の分析<ul style="list-style-type: none">・4～6月において、おしなべて時間外勤務の平均時間については同様であるが、生徒指導等、保護者対応など、突発的な事案に対応する時間がある時とない時とに差がある。・様々な行事や取組を工夫しながら再開することで、教職員と生徒が接する時間が増えたが、その分仕事の効率化を図り、昨年度よりも勤務時間を意識することで、超過勤務時間が減少したと推測される。・休日の部活動指導や、対外試合・大会などの生徒引率指導など、平日の勤務時間にプラスされる時間の軽減が図れていいないことは今後とも課題である。○各自が自身のライフワークバランスについて考える雰囲気が職場に出てきたので、更に意識を高めることが引き続き課題である。○職場内の OJT の意識を高め、さらなる業務の効率化を図ることも依然課題である。 |
| 分析を踏まえた取組の改善 | |
| | <ul style="list-style-type: none">○生徒に関わる活動のための仕事を従前どおり継続しつつ、勤務時間の目標を設定し、その目標を達成できるように各自が意識を高める。○各自がライフワークバランスと仕事の効率化を図るよう意識改革をさらに呼びかける。○<u>OJT を浸透させ、中堅・ベテラン教職員と若手教職員が仕事の分担を図り、時間短縮を図る。</u>○部活動指導時間と勤務のバランスを意識し、定着しつつある退勤時間の目安を引き続き意識していただくように呼びかける。○校務支援員、ICT 支援員、学生ボランティアの活用をすすめる。 |
| | (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 |
| | <ul style="list-style-type: none">○出退勤システムの集計を分析、検討する。○学校評価アンケート（教職員）での意識調査を継続する。○会議の資料など、ペーパーレス化できるところは実施し、資料準備の時間を削減する。 |
| 学校関係者評価 | 学校関係者による意見・支援策 <p>学校側の説明から、採点補助ソフトの導入により、テスト採点時間が大幅に短縮されたことに、驚かれていた参加者が多く、今後も ICT 機器などをうまく使いながら、超過勤務時間の削減などに努力してほしい、との意見があった。</p> |

最終評価

| |
|--|
| (中間評価時に設定した) 各種指標結果 |
| ○出退勤システムにおける超過勤務者（80時間以上）・時間外勤務時間集計結果（教職員 32人） |

- ・10月… 3人（平均 49h24m）（昨年度 10人（平均 59h57m））
- ・11月… 5人（平均 48h46m）（昨年度 5人（平均 49h44m））
- ・12月… 2人（平均 44h57m）（昨年度 3人（平均 42h26m））
- ・1月… 人（平均 h m）（昨年度 1人（平均 38h46m））

○職員会議の資料をデータ化し事前に配信、会議に各自統合端末を持参し、資料を検討することを継続でき、会議時間の短縮につながっている。

○働き方改革の意識が上がり、生徒・保護者と関わる時間を大切にしつつ、仕事の効率化を目指した働き方をする教職員が増えた。

○後期の学校評価アンケート（教職員）では、「自分は、ライフワークバランスを考えて、業務の効率化を図っている」「そう思う」「ほぼそう思う」が、重要度は95.5%、実現度は72.7%であり、意識の高さがうかがえたが、多くの仕事を抱え、実現していない面も見えた。

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

○働き方改革の意識が社会に浸透してきていることもあり、教職員が保護者対応の時間帯を配慮するようになり、特に教職員・保護者共に遅い時間帯の対応は減少している傾向にある。

○職員会議の資料をデータ化し、事前に配信することで、検討事項などを会議で議論する時間の短縮につながっている。

○超過勤務の分析

- ・10月～1月に関する昨年度比は、人数も平均時間も減少傾向にある。しかし、未だ100時間超えが10月は1人、80時間超えが11月は5人おり、生徒・保護者対応、部活動公式戦生徒引率指導、文化祭や体育大会の取組などがあり、全体的にかつ一部の教員に負担がかかっていたことは否めない。
- ・「No残業デー」（水曜日）をはじめ、ライフワークバランスを意識することにより、全教職員が退勤時間を意識して早くに帰宅する傾向にある。一方で、生徒指導での生徒・保護者対応、特性のある生徒への対応、不登校生徒の夕方・夜の登校の対応、家庭連絡などに要することが続くなど、負担も継続することとなっていた。
- ・自身の健康管理やライフワークバランスについて考える職員が増えてきたことから、これを機に更に意識が高まり、業務の効率化を工夫する体制になることが引き続き今後の課題である。

○次年度の課題

生徒と接する時間は維持し、さらに工夫した関わり方を模索することが必要であることと、行事の精選、業務の効率化、休日の部活動の在り方など、超過勤務時間を月に45時間以下を達成するにはどのような点で工夫が必要か、今後議論しながら実行できれば、と考えている。

分析を踏まえた取組の改善

○出退勤システムの集計を分析・検討を継続する。

○今後も会議資料を事前にTeamsで配信し、時間の効率化、ペーパーレス化を図る。

○OJTを推進することで業務の効率化に繋がる組織風土を目指す。

○行事の精選や授業数の綿密な計画、会議回数の見直しなどを積極的に推し進める。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

来年度超過勤務時間を45時間以下にするための工夫を今後も続けていただきたい、とのご意見をいただき、学校側からも、年度当初に、保護者向けに様々なご理解をお願いする文書を出す予定であることをお伝えした。

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標

- ・生徒が安心して、安全に活動できる集団づくりを推進する。
- ・生徒一人ひとりを大切にし、見逃しのない観察・手遅れのない対応・心の通った指導を推進する。

具体的な取組

「学校いじめの防止等基本方針」に同じ

(取組結果を検証する) 各種指標

- ① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めているか。
- ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介しているか。
- ③ 学校教育活動生徒アンケートの「自分は相手を思いやり、寄りそう行動ができる」と「上京中学校は、相手を思いやり、寄りそう行動ができる学校」「上京中学校は先生と生徒が話しやすい学校」等の項目を検証する。
- ④ 生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有しているか。
- ⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知しているか。

中間評価

各種指標結果（%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算）

（下線は、今後の課題の対象と考える項目）

- ① 年度初めの職員研修でいじめ防止基本方針の確認を行った。

教職員アンケート「自分は“学校いじめの防止等基本方針”の内容を理解し、組織的対応に努めている。」では、「そう思う」「ほぼそう思う」と回答した合算数値は100%であった。

- ② 全校集会で校長よりいじめ対策委員会のメンバーを紹介し、いじめなど困ったことが起きた時はすぐに係の先生や自分が相談しやすい先生に相談に行くように指導している。

- ③ 各種アンケート結果（%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算）

（下線は、今後の課題の対象と考える項目）

〈生徒〉・・・学校評価アンケート結果

・「自分は楽しく学校に通っている」 1年生 89.5% 2年生 92.0% 3年生 91.1%

・「自分は周囲から大切にされている」 1年生 91.3% 2年生 95.0% 3年生 95.9%

・「自分はいじめはしてはいけないということを認識（わかつて）している。」

1年生 98.2% 2年生 98.0% 3年生 99.2%

・「自分は相手を思いやり、寄りそう行動ができる」

1年生 91.2% 2年生 93.2% 3年生 99.1%

・「上京中学校決まりを守れる学校」 1年生 95.7% 2年生 87.3% 3年生 97.6%

・「上京中学校は先生と生徒が話しやすい学校」

1年生 96.5% 2年生 98.0% 3年生 98.4%

・「自分はいじめられたり、いじめを見たときに教員に相談すればよいかわかつてている」

1年生 91.0% 2年生 94.1% 3年生 97.6%

〈保護者〉・・・学校評価アンケート結果

- ・「学校の生徒指導の取組が理解できる」 89.1%
- ・「先生は、子どもに対して適切に指導している」 80.7%
- ・「生徒は、生き生きとしている」 89.6%
- ・「生徒は、学校や社会のきまりを守っている」 94.2%
- ・「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」 83.0%
- ・「子どもは、先生と話しやすい、相談しやすいと言っている」 78.6%
- ・「子どもは、自分が大切にされていると感じている」 87.0%
- ・「子どもは、人を大切にする言動をしている」 88.8%
- ・「HPの『学校いじめの防止等基本方針』を読んだことがある」 65.4%

〈教職員〉・・・学校教育活動教職員アンケート結果

- ・「本校では、学校・学年・学級の情報は適切に保護者や生徒に提供されている」
重要度 100% 実現度 95.5%
- ・「本校では、生徒が学年やクラスの一員として個性を十分生かせるような取組をしている」
重要度 100% 実現度 95.5%
- ・「本校では、生徒の良いところを認めて適切に評価している」
重要度 100% 実現度 95.5%
- ・「本校では、カウンセリングマインドを持って親身になって相談に応じている」
重要度 100% 実現度 100%
- ・「本校では、個々の家庭の教育上の課題を把握し、保護者との話し込みを行っている」
重要度 100% 実現度 95.5%
- ・「本校では、保護者からの相談に適切に対応し、相互の信頼関係を築いている」
重要度 100% 実現度 90.9%
- ・「本校では、生徒指導に関して迅速に対応するため、報告・連絡・相談の原則に沿った行動がとれている」 重要度 95.3% 実現度 100%
- ・「生徒は、自分を大切にすると共に他者への尊敬・人権の尊重など、実践的態度が養われている」
重要度 100% 実現度 100%
- ・「自分は、傾聴と対話を大切にして、生徒を理解し、生徒指導を行っている」
重要度 100% 実現度 100%
- ・「自分は、学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている」
重要度 100% 実現度 100%

④ 生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有しているか。

定例の生徒指導委員会で個別ケースの検討を行い、職員会議で内容を共有している。

教職員アンケート「本校では、生徒・保護者（アンケート結果含む）の訴えや相談内容を共有している。」では、「そう思う」「ほぼそう思う」と回答した合算数値は100%だった。

⑤ 「上京中学校学校いじめの防止等基本方針」のホームページ掲載を行った。

| | |
|------|--|
| 自己評価 | 分析（成果と課題） |
| | いじめにつながる可能性のトラブルや、いじめを早期に発見し、迅速かつ丁寧に対応することができている。また、いじめアンケートや教育相談を用いて生徒が相談しやすい環境を設けることができている。課題としては、学校生活の様子を教科担任や学級担任が見取った情報をある一定情報共有はできているが、タイムリーでなかったり、全体共有を徹底できていなかった |

| | |
|-----------------------------|--|
| | <p>りする状況もある。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>情報共有を徹底し、些細なことでも漏れなく報告・相談・連絡できるよう風通しの良い職場環境をつくりていきたい。そして、生徒を学校全体で支える生徒指導を展開していきたい。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>いじめ関係生徒の経過観察を徹底すること。生徒の情報共有をするうえで不可欠な保護者との人間関係を構築できているかを検証いきたい。</p> |
| 学校 関 係 者 評 価 | <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学校側からの説明の中で、「積極的認知」の方向で、些細な生徒間トラブルにおいても、対応を重くとらえて対応し、さらに、必要があれば、関係機関とも連携しながら細かく対応するようになっていることを伝えている。それを受け、この概要で引き続き取り組んでいただきたい、とのご意見をいただいた。</p> |

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果 (%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算)

- ① 年度初めの職員研修でいじめ防止基本方針の確認を行った。
教職員アンケート「自分は“学校いじめの防止等基本方針”の内容を理解し、組織的対応に努めている。」では、「そう思う」「ほぼそう思う」と回答した合算数値は100%であった。
- ② 全校集会で学校長よりいじめ対策委員会のメンバーを紹介し、いじめなど困ったことが起きた時はすぐに係の先生や自分が相談しやすい先生に相談に行くように指導している。
- ③ 各種アンケート結果 (%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算)

〈生徒〉・・・学校評価アンケート結果

(中間評価時と比較して、数値が上がっているものは二重線、下がっているものは波線で表記)

- ・「自分は楽しく学校に通っている」 1年生 92.0% 2年生 90.5% 3年生 94.7%
- ・「自分は周囲から大切にされている」 1年生 88.4% 2年生 92.4% 3年生 95.6%
- ・「自分はいじめはしてはいけないということを認識（わかつて）している。」
1年生 98.2% 2年生 99.0% 3年生 98.2%
- ・「自分は相手を思いやり、寄りそう行動ができている」
1年生 95.5% 2年生 92.3% 3年生 97.3%
- ・「上京中学校は決まりを守れる学校」 1年生 94.6% 2年生 93.3% 3年生 96.5%
- ・「上京中学校は先生と生徒が話しやすい学校」
1年生 96.4% 2年生 98.1% 3年生 100%
- ・「自分はいじめられたり、いじめを見たときに教員に相談すればよいかわかつてている」
1年生 91.9% 2年生 97.1% 3年生 96.5%

〈保護者〉・・・学校評価アンケート結果

(中間評価時と比較して、数値が上がっているものは二重線、下がっているものは波線で表記)

- ・「学校の生徒指導の取組が理解できる」 90.2%
- ・「先生は、子どもに対して適切に指導している」 93.3%
- ・「生徒は、生き生きとしている」 91.8%

- ・「生徒は、学校や社会のきまりを守っている」 96.9%
- ・「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」 82.5%
- ・「子どもは、先生と話しやすい、相談しやすいと言っている」 85.2%
- ・「子どもは、自分が大切にされていると感じている」 92.3%
- ・「子どもは、人を大切にする言動をしている」 92.3%
- ・「HP の『学校いじめの防止等基本方針』を読んだことがある」 76.5%

〈教職員〉・・・学校教育活動教職員アンケート結果

- ・「本校では、学校・学年・学級の情報は適切に保護者や生徒に提供されている」

重要度 100% 実現度 95.5%

- ・「本校では、生徒が学年やクラスの一員として個性を十分生かせるような取組をしている」

重要度 100% 実現度 95.5%

- ・「本校では、生徒の良いところを認めて適切に評価している」

重要度 100% 実現度 95.5%

- ・「本校では、カウンセリングマインドを持って親身になって相談に応じている」

重要度 100% 実現度 100%

- ・「本校では、個々の家庭の教育上の課題を把握し、保護者との話し込みを行っている」

重要度 100% 実現度 95.5%

- ・「本校では、保護者からの相談に適切に対応し、相互の信頼関係を築いている」

重要度 100% 実現度 90.9%

・「本校では、生徒指導に関して迅速に対応するため、報告・連絡・相談の原則に沿った行動がとれている」 重要度 95.3% 実現度 100%

- ・「生徒は、自分を大切にすると共に他者への尊敬・人権の尊重など、実践的態度が養われている」

重要度 100% 実現度 100%

- ・「自分は、傾聴と対話を大切にして、生徒を理解し、生徒指導を行っている」

重要度 100% 実現度 100%

- ・「自分は、学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている」

重要度 100% 実現度 100%

④ 生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有しているか。

定例の生徒指導委員会で個別ケースの検討を行い、職員会議で内容を共有している。

教職員アンケート「本校では、生徒・保護者（アンケート結果含む）の訴えや相談内容を共有している。」では、「そう思う」「ほぼそう思う」と回答した合算数値は 100% だった。

⑤ 「上京中学校学校いじめの防止等基本方針」のホームページ掲載を行った。

| | |
|------|--|
| 自己評価 | 分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 |
| | 学校評価アンケート〈生徒〉では、ほとんどの生徒が「いじめをしてはいけない」と認識しているが、いじめの件数はゼロにならないのが現状である。 いじめ対応については、生徒との関わりや観察、教育相談、いじめアンケート、家庭との連携などによって、生徒一人ひとりの SOS を見逃さないように努め、手遅れのない対応・心の通った指導を心掛けている。しかし、対応について生徒や保護者の方からの理解を得ることが難しいケースも少なくはない。生徒や保護者の方の要望を受け入れながらも学校としてできることとできないことを提示し、今後も柔軟に対応していきたい。 |

| | |
|-------------------------|--|
| | <p>重点目標の「生徒が安心して、安全に活動できる集団づくりを推進する」の達成状況について、次のように考える。学校評価アンケートの〈生徒〉「上京中学校は先生と生徒が話しやすい学校」〈保護者〉「子どもは、先生と話しやすい、相談しやすいと言っている」の項目で高い数値が示されている。今年度、教職員が学校行事や学年および学級活動を通じて、一人ひとりの生徒に寄り添い、それぞれの言葉で声かけをした結果、教職員と生徒の間で信頼関係が醸成されてきたと捉えている。今後はさらに集団に重点をおき、集団の規律やあたたかさなど、安心安全に過ごせる集団の在り方について、教職員それぞれの言葉で繰り返し発信していきたい。</p> |
| | <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>いじめによって本校から加害者と被害者を生み出さないために、取り組み内容は継続していきたい。</p> |
| 学校 関係 者 評 価 | <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>特に大きなご意見は出なかったが、感じる側がそう感じるといじめになることは、受け止め方に差が生じ、共通理解が難しいとのご意見や、先生方はたいへんだが、この方向性で引き続き取り組んでいただきたい、とのご意見があった。</p> |